

Title	スワヒリ&アフリカ研究 第26号 編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2015, 26
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/72977">https://hdl.handle.net/11094/72977</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 80 編集後記

今年、2015 年は様々なことの節目の年です。敗戦から 70 年、つまり原爆投下からも 70 年です。また、阪神淡路大震災から 20 年、同時に地下鉄サリン事件からも 20 年が経ちます。戦争、天災、人災と種は違えど、多くの人々の命が失われ、危機にさらされたという点では変わりありません。

天災は、人知ではいかんともしがたいものがありますが、先の大戦もサリン事件も、人間が思考の限りを尽くせば防げたかも知れないことです。震災にしても、地震そのものとはかく、その後起きた孤独死や自死については、私たちの社会にあるひずみをもたらした結果とも言えることから、やはり防ぐ努力をすべきでした。

このように、今年は命の重さや社会のあり方について再考を促す機会が度々ある年だと思っていた矢先、年の初めから私たちに多くの課題を突きつけるできごとが立て続けに起こりました。IS による後藤氏・湯川氏殺害事件と、曾野綾子氏による差別コラム発表事件です。

前者については、アフリカでの紛争後の支援にまつわる活動から、後藤氏と関わりのあった学生もおり、また、彼の著書を読んだことのある学生も少なからずいることから、紛争地のみならずアフリカの様々な地域、分野における支援活動について色々と考えをめぐらすきっかけになったと言えます。

後者については、現役学生の迅速な行動と、その呼びかけに熱く応えた大阪外大時代を含む卒業生の思いが結集して、「抗議文」を提出することができました。ネルソン・マンデラ氏が釈放されて 25 年目という、これもまた節目の年に起こってしまった「日本の赤恥をさらす」事件ではありましたが、スワヒリ語専攻としては、アパルトヘイトが厳然と存在した南アを知る世代も知らない世代も、アフリカ学徒としてなすべきことは何かがきちんとわかっていることを示す機会になったと言えます。

私たちには、まだまだ知らねばならないこと、学ばねばならないこと、考えねばならないことが山ほどあります。それはアフリカについてだけではありません。自分の身の周りにある「おかしいこと」に気付き、考えることをやめないようにしなければ。様々な節目の年に、その思いを新たにしました。

最後になりましたが、今号も無事に刊行することができました。学外からの投稿も複数あり、大変ありがたい限りです。ご投稿下さったみなさん、本当にありがとうございました。また、今号も大阪大学大学院言語文化研究科から助成金をいただいて刊行することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

国内の数少ないアフリカ地域研究誌の一つとしての貢献を続けていきたいと願っていますので、今後も多くの方からの投稿を心よりお待ちしております。

(2015 年 2 月 26 日 T)

---

2015 年 3 月 10 日発行

### スワヒリ & アフリカ研究 第 26 号

発行 大阪大学大学院言語文化研究科 『スワヒリ & アフリカ研究』編集委員会

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1

編集 米田信子、小森淳子、竹村景子

印刷 株式会社アイジイ

---

ISSN 0915-8758